TM通信 **学ぶ喜び** VOL.8

ー仲間とともにつながる学校へー

2025.7.16

先日の提案授業における先生方の見取りをまとめました。『グループのまま、作品制を行う』という初めての取り組みについては、戸惑いも見られましたが、全体的に積極的な姿勢が多かったという印象です。ただ、中には、話し合いができていない班もあり、そもそもの集団づくりや、だれとでも学びあえる雰囲気づくりが必要という意見もありました。

グループワークにおいては、生徒たちが友達の意見を聞いたり、作品（教科によっては活動、学習の様子）を見たりすることで、自分自身の学びに即座に取り入れ、活かし、一時間の授業の中で自己の成長を感じる（この時間、これがわかった！これを知った！これができるようになった！これについて考えた！）ことができれば、生徒の学ぶ喜びにつながると考えられます。二学期も、生徒が学ぶ喜びを感じ、それを積み重ねられる授業づくりに取り組んでいきたいと思います。

・生徒の姿を中心に
・生徒が新たな気づきを得たり学びを深めたりしたのは
・建設的な助言や提案など

班で会話しようとしても会話にならず、タブレットで動画を見続けて、指導しても聞き入れない。こういった生徒へはどのように対応するのがいいのか。難しいところだと感じました。

工夫したところなどの共有をする際に、一言ずつ言って終わってしまったので、意見交流が深まらなかった。1つ質問かアドバイスをするなどしても良かったかもしれない。

名前順で分けられた班なので、積極的に話し合いを進められる子がいなかったり、いきなり話をするのが難しい子もいた。グループで話し合うための下準備が必要かな。

支援学級在籍の生徒にもう少しサポートできる手立てや一緒にがんばれるメンバーを班編成の際に配慮する必要があるかと思う。

・集中して頑張っていた
・グループにする必要性は？(話し合いがなかった。生徒が必要性を感じていた？)
・[redacted]先生の描くゴールの姿は？(生徒の作品や振り返りの記述など)
・最初の話し合い→シェアがあれば。
・中間指導等があればよかった。

聞く→準備→制作→片付けまでの型がしっかりとできている【授業規律】
他者と交流が誰とでもできる
自分の作品を自分のペースで感せず進められる
雰囲気【集団づくり】
（班での交流について）
何が良かったかなどを伝える語彙力
→他者評価の経験を積み重ねること
→他者評価の良かった班などをフィードバックする（◯班でのこんな所が良かったよ）
（ゴール設定）
何が達成できてたらOK?

工夫したところに対して「なるほど」とあいづちを打ったり、「こうしてみたら」とアドバイスしている姿が見られた。

グループ学習をすることで、会話（対話）しながら、授業をすすめていくなら、子どもたちからの「これどうしたらいい？」の質問は、「近くの子に聞いてみたら？」と返すだけで、ぜんぜんかわってくると思います。おとなからの答えを求めるより、子どもたちどうし学びを深めることで、学び合いの関係につながると感じました。

グループにすることで（なかなかむずかしい）会話はうまれやすいのかなと感じた。
たとえば、6班の子どもの会話のなかで、「○○の見てどうつくる？」「○○×○○まねする。」という会話がうまれていた。

作品についての助言はそれぞれが思い描く世界観などもあると思うので難しいところもあるかもしれないが、色を作り出す時や、着色の仕方などはお互いに助言ができるのではないかと思うので、どのような助言をするといいかを授業者が指示を出すともう少し活発になるかもしれないと思いました。

7班では黙々と作品を作っている姿が見られました。話す場を設けるなら途中でお互いの作品を見せ合う時間があったら良いのかなと思いました。

指示は的確で、子供達も静かに聞けていた。
4人班の中で、3人はところどころ発言があったが、意欲的ではない生徒に対しての声掛けはなかった。
後片付けの時間に、他班の岩崎が橋本に声をかけてくれ、本人は嬉しそうだった。
先生が見にきていたからか、無意味な立ち歩きがなく、全員が着席していた。
疑問に思ったことなどを班のメンバーに聞く前に、先生に質問する生徒が多く見られた。
せっかくの班活動なので、まずは班に質問するなどが見られると良かった。

[redacted]は手になりたがり、横の[redacted]さんが、[redacted]さんのiPadのがめんを持っていた。
さいごの発表で、提出する際も、[redacted]は[redacted]さんのiPadをのぞきこんでいたので、横の人のやることに気にしているのだと感じました。

事前に自分の作品のプランを発表させて助言を受けやすいようにアドバイスをしやすいようになるのではないかと感じた

・交流会
一人ひとりの発表に対して、それぞれが共感する意見を出した。
・準備、片付け
準備　→水入れを班員分持ってきた
片付け→新聞紙回収
・制作中
制作中の絵の話をしながら。
制作中の絵に関する質問をしながら。

向かい合って作業することで、作品についての相談をしやすい環境づくりに役立つと感じた。

助言の仕方の具体例提示

色がはみ出てしまい、どうしようか悩んでいる友達に対し、欠けたことにすれば、、、と声かけがあり、焦らず作業を続けている場面があった。

・最初の交流では生徒が声掛けを行いながら、交流できていた。
・授業の終盤、[redacted]が自分の作品をじっくり見て見直していた。隣の席の[redacted]の作品をタブレットで見たりもしていた。

[redacted]調整をする際に、相談をして[redacted]調整に反映していた。

アドバイスしてくれたことを、自分の作品に取り入れていた。

色とか、この色足したらどう？とか

グループワークにすることで、お互いの進度や、作品を見ることができ、作品についての会話ができると感じた。
普段からグループワークを取り入れ続けた場合、もっと積極的な交流が発生するのではないかと感じた。

お互いが向かい合って作業を行うことで助けが求めやすいように感じた。
色の濃さを調整するにあたり、水を足す量のアドバイスをしていた。

中盤に作業の途中経過に対してのアドバイスをペアやグループで行なっても面白いのではないかと感じた。
【ピカソだって人の真似から】

前向きな声かけを行っていた

作成してる中でこうしたらみたいなのがあった

意欲的でない2人がいる中で、交流時には、一人の生徒が話を進めようと積極的に声をかけていた。

先生に促されても、なかなか作品に取り組むことができない2人に、「直線ってどうやったらまっすぐ書けると思う？」と、やっている生徒が声をかけて、コミュニケーションをとろうとしていた。

作っている色を変化させたい時に、先生の助言を受けて、いろいろと試す姿が見られた。

作品を紹介したあとの周りの反応が常に肯定的なリアクションをしていた

制作中、失敗したこと成功したことを自然に互いに見せ合って、アドバイスしていた

制作中の悩みの発言に対して、周りの子が助言していた

・美術に関するアドバイスも含め、雑談もありながら作業を進めていた。（サーモグラフィー、できたことや失敗したこと、作品のできについての共有）
・グループワークを活性化させるのに必要だと感じたこと
①個々人の美術に関する知識、実技力
②普段の授業からの作品の出来について交流し合う雰囲気。

グループで向き合っていることで、雑談の中から、作品につながる会話も出ていた。
井関さんと岡部さんの、塗り方がムラになることの話や、話には入らなくても、聞いて参考にしようとしているように見えた。
お互いの作業がわかることで、色塗りに進んでいない大谷さんに、岡部さんが、色彩カードを渡したり、それぞれの作品を気にしている様子だった。
伏見先生が指示された「よいところは真似をしたらいい」は、お互いの作品を見合うことを意識づける。

作品の説明の際、作品の共通点を見つけて、共有していた。

配色に対しての指摘・質問があり、それに答えていた。

自分の作品を「見てほしい！」との発言があった。

いいやん！とか良い声かけがたくさんあった。

相手にたずねて、客観的な意見が聞けていた。